

る必要があるからです。

1) 目標の明確化

平成維新とは何かについては、既に「平成維新憲章」及び「平成維新の誓い」があります。しかしこの内容と表現の2面から今一步洗練する必要があるのではないかと思います。

内容面では、生活者主権の国を創るには、何といても民主主義を徹底する必要があります。所が戦時中からの行政主導体制が続いており、立法・行政・司法の三権分立が必要条件であるにも拘わらず、司法が著しく弱くてバランスを欠いています。司法を強化して健全な民主主義を確立することも重要な目標の一つだと思います。

表現面では、憲章は各項3～4行の文章で構成されていますが、各項目にタイトルをつけ、タイトルだけで中味が容易に理解できるような工夫が、大衆の理解を得る為には必要だと思います。又どんな社会にするのかを主とし、自分達は何をするのかは行動指針として分離する必要があります。

具体的には、「民主主義の徹底」「生活者優先」「地方主権」「世界との共生」というようなタイトルで、もっと平易に大衆に受け入れられ易い目標をつくる必要があるように思います。

2) 目標到達への道筋

どうやって平成維新を実現するかが一番大切な事だと思いますが、この見通しははっきりしないばかりに、平成維新の会の再編成と共に会員数は減少し、活動力が低下してきているように感じられます。勿論容易な事ではありませんが、さりとて見通しを立てて活動しなければ、いつまで経っても実現は覚つきません。

どうしたら目標に到達出来るか分からないという会員が多いのではないかと推察しますが、逆にいえば、現状は未だ軌道に乗って居らず、選択肢が多すぎるからだともいえます。しかし少ない会員がばらばらに動いたのでは、烏合の衆になってしまいます。従ってこの際、将来の修正を恐れず大胆にビジョンを打ち出す必要があると考えます。今後10年間のビジョンというシナリオを早急に作り、民主的討議を経て之を確立し、それに基づき3～5年間の長期計画を策定し、その線に沿って1年間の実行計画を作り、活動実績に基づいて毎年計画を見直す。このような作業は、通常の企業でも行われていますが、我々の運動でも必要な作業だと思います。

最終的には国会の多数派を制する必要がありますが、現在の議席は0です。しかも既成政党は生産者、労働組合、宗教団体、イデオロギーを代表するだけで、生活者を代表する政党がないという不思議な現象を呈しています。これは有権者大衆の政治意識の低調を物語るものではないでしょうか。

50年前の敗戦直後は、自分達の力で窮状を何とか打開せねばという気持ちが強かったように思います。しかし経済復興と共に生活が相対的に楽になり、現状への満

足感が拡がり、自己中心主義が蔓延し、活力が低下してきたように思われます。

所が、最近では、深刻なデフレ、金融システムや財政の破綻、産業の空洞化が進み、相当な外科手術を施さないと国内事情のみならず、対外関係にも危険が予測される状態に陥っています。将来展望は甚だ暗く、明らかに次の世代に多大の負債を押しつけつつありますが、残念ながら未だ気がついていない人が多いのではないのでしょうか。

従って方法論として他の勢力との協調、連合を手段として考慮する事はあっても、基本的には自力で同志や賛同者を拡大し、生活者中心の政治勢力を創造し、規制緩和や行財政改革を、掛け声だけでなく実現する力を獲得する必要があります。まずは目標を明確にし、次いで会員同志や賛同者を拡大し、現在の無党派、無関心層、更には既成政党の支持層の一部をも理解者としてできれば、我々の目標は達成出来るでしょう。その為には現在の核会員が如何に合目的に活動できるかが、我々の運動の成否を分かつポイントとなるでしょう。

4. おわりに

「平成維新を実現する都民の会」という名称ですが、一体どうやって実現するのですかという問いに対して、残念ながらはっきりした答えが聞こえません。恐らくは一人一人はそれぞれお考えをお持ちでしょう。ならばそれを持ち寄って討議し、文殊の知恵で良い答えを見つけようではありませんか。

提案がやや形式的になり、内容が抽象的で申し訳ないと思っていますが、具体的な計画に入る前に、まず大筋を固める必要があるのではないかと考えて、以上のような提案を行った次第です。

私は残念ながら大衆運動には未経験なので、或いはピントがズレているかも知れませんが、会社での色々な立場での経験からすると、余程単純な事でも、分かり易く何遍でも繰り返し話をしないと、団体の中で意思の疎通を計る事はなかなか困難だと感じてきました。ましてボランティアの団体では、コミュニケーションを良くするには絶大な努力が必要でしょう。

戦略なき企業は潰れる時代に入りました。市民運動の団体でも、事情は同様ではないでしょうか。「平成維新を実現する都民の会」が単なる「同好会」や「仲好しクラブ」に墮する事なく、活動的な、しかも大衆の共感と信頼を獲得できる団体に成長する事を念願して、まず第一に我々の目標と活動方針を単純に集約する事を提案した次第です。